

2024年度 冬・春季 千葉YMCA 環境・野外教育研究所 キャンプ 報告書



ごあいさつ

千葉YMCAウインタープログラム、スプリングプログラムへご参加頂き、ありがとうございました。

多くの参加者の皆様と共にキャンプを行うことができました。ご家庭の皆様のご協力のもと、大きな事故や怪我もなく無事終了することができましたことを先ずご報告申し上げ、心より感謝申し上げます。

YMCAのキャンプは「気づき」と「チャレンジ」を大きなテーマとかけ、「安全」で「楽しい」なかで実施、展開しております。キャンプでは対象、期間を考慮しながら、それぞれの目標、テーマを設定し、安全で楽しい中でそれらが効果的に達成できるよう、準備から実施に至るまで様々な配慮や工夫をいたしました。

スキーキャンプではスキーが初めてのお子様から経験のあるお子様の参加がありました。現地に到着してからの各人の体調、天候、ゲレンデの状況に臨機応変に対応して、運営いたしました。特に今年度は雪に恵まれたこともあり、思う存分にスキーを、雪遊びを楽しむことが出来ました。

ときどきウインターキャンプ、チャレンジネイチャーキャンプでは、千葉市少年自然の家の環境を生かし、クライミングウォール、野外炊飯、キャンプファイヤーや、ハイキングなど里山を知る様々なプログラムを行いました。

キャンプはディレクターとリーダーを中心に運営されますが、参加者一人ひとりを大切に、そのキャンプの特色や意図・ねらいが子どもたちに伝わっていくよう最善を尽くしてまいりました。

キャンプの効果については様々な研究がなされております。即時的に発現するものもあれば、何年また何十年か先に見えてくるものもあります。そういう意味では、効果の分かりにくい部分がたくさんある教育活動です。ただ一つだけはっきりと言えるのは『キャンプで刻まれた経験は、その人の中にずっと生き続ける』ということです。キャンプは小集団での生活や活動を基本としています。異なる個性が集まった集団の中で、一人ひとりを尊重し、仲間と「共に生きていくことの大切さ」、自己・他者に対する新しい「発見」を促進できるようにとキャンプを計画し、実施してまいりました。

YMCAではこれからも体験学習の場としてキャンプをとらえ、より多くの子どもたちに、一生の宝物となる多くの経験をしてもらうためにさらに改善、改良を加えてまいります。

たくさんの「夢」と「願い」を込めて実施したキャンプが、いろいろな場所で開花し結実することを願いつつ、また多くの人に支えられて無事終了できたことを感謝し、ご報告とさせていただきます。

一般財団法人 千葉YMCA
環境・野外教育研究所所長
山添 仰

キャンプ名：エンジョイスキーキャンプ

日 程：2024 年 12 月 27 日（金）～12 月 30 日（金） 3 泊 4 日

宿 泊：尾瀬関の宿 ホテル玉城屋

ゲレンデ：スノーパーク尾瀬戸倉 丸沼高原スキー場

参加対象：小学 1 年生～中学 3 年生

運営体制：キャンプディレクター 小林 和弘（かずっちリーダー）
松原 奈美（まっつーリーダー）
プログラムリーダー 村田 暖乃（こてリーダー）
藤原 彩来（じょいリーダー）
大橋 千花（ちーちゃんリーダー）
グループリーダー 岸原 光里（びすこリーダー）
北島 花菜（むぎリーダー）
高品 玲奈（ビーバーリーダー）
関口 楓（みいリーダー）
中村 聡志（ブルリーダー）
内藤 蓮（ゆにきちリーダー）
大木 翔（オセロリーダー）
寺島 颯太（てらっちょリーダー）
OBOG リーダー 吉野 春奈（あまさんリーダー）
藤村 美里（しゃんしゃんリーダー）
久保田稀恵（SUN リーダー）
緒方 昂洋（ハイオクリーダー）

タイムテーブル：

日程	12 月 27 日（金）	12 月 28 日（土）	12 月 29 日（日）	12 月 30 日（月）
午前	集合 バス移動 ホテル玉城屋昼食	朝の集い→朝食 レッスン② 初心者→尾瀬戸倉 経験者→丸沼高原	朝の集い→朝食 レッスン④ 全員→丸沼高原	朝食 チェックアウト レッスン⑥ 全員→尾瀬戸倉
午後	板・ブーツ合わせ レッスン① 全員→尾瀬戸倉 グループタイム	昼食 レッスン③ グループタイム	昼食 レッスン⑤ グループタイム	昼食 ホテル出発 各指定場所で解散
夜	夕食 レクリエーションタイム 就寝	夕食 グループタイム 就寝	夕食 キャンドルサービス 就寝	

ディレクター報告：

この度は千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催のウインターキャンプにご参加頂きありがとうございます。今年度は雪にも恵まれてとても良い雪質の中でキャンプの実施が出来ました。しかしながらキャンプ前にはインフルエンザが警報級の流行、保護者様も不安が多い中での参加だったかと存じますが、大きな体調不良者も出ずにキャンプ実施が出来ました事ご報告いたします。

朝は「千葉駅」と「流山おおたかの森駅」それぞれで集合をしました。初めて参加をするお友だちや何度も参加をしたことのあるお友だち、バスの中では少しぎこちない様子が見えましたが、時間の経過とともに笑顔が増えていきました。バスが赤城高原を過ぎて沼田市内に入ると、少しずつ雪が見えてきました。子どもたちの期待が一気に高まっていく様子が伝わってきます。宿に到着をして昼食を食べたらスキーウェアに着替えて出発の準備です。ソックスやアンダーシャツの着方などをリーダーがチェックし、スキーブーツを履いてマイクロバスに乗り込みます。今年はここ数年では一番雪があり、スノーパーク尾瀬戸倉でも積雪は十分なほどありました。初日は 1 時間程度でしたが、経験者チームは足慣らしで沢山本数を滑り、初心者チームはブーツの履き心地に慣れ、板合わせとブレーキ練習であっという間に時間が過ぎていきました。帰りのバスを待つ間に子どもたちとリーダーたちは雪遊び、腰まですっぽり埋まるほどの積雪とフカフカの雪に子どもたちも大興奮でした。宿に戻ったら順番にお風呂に入り、それぞれの部屋でゆっくりと時間を過ごしました。18 時から夕食を食べてその後はレッスングループミーティングです。これは スキーをするグループに分かれてその日の振り返りと雪上では 伝えにくい細かな点、実際に自分が滑っている姿をリーダーが 撮影し、動きを見ながら解説をする時間です。15 分程ですが、みんな真剣な表情で話を聞いていました。その後は夜のレクリエーションです。グループ対抗から男女対抗、そして個人戦のレクリエーションなど子どもたちの関係性が広がっていくようなゲーム構成、大盛り上がるの時間となりました。

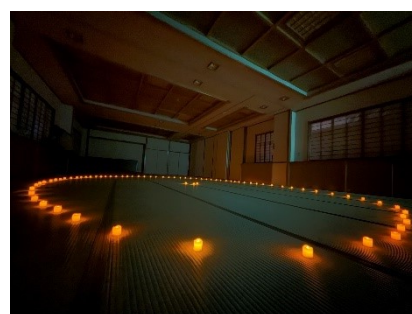


2 日目は朝の集いから始まります。まだ眠たい目をこすりながらみんなで集まり、体操とディレクターからのお話を聞いたら、朝ご飯の時間です。この日はキャンプ全体が 2 つに分かれて行動をします。半分は丸沼高原スキー場へ移動、残り半分はスノーパーク尾瀬戸倉でレッスンです。朝食の後にまず丸沼高原スキー場へ移動するチームがバスに乗り込みます。宿から丸沼高原スキー場までは大型バスで 30 分程、夕方まで戻らない予定なので、リーダーたちの忘れ物チェックやブーツの履き間違いチェックなども入念に実施しました。その後にスノーパーク尾瀬戸倉でレッスンをするお友だちがバスに乗り込んで出発、それぞれレッスンをしていきました。尾瀬戸倉のお友だちは主に初心者・初級者のお友だち、ブレーキ練習から始まり、緩やかなグレンデをターンしながら滑りました。午後には初心者のお友だちも全員リフトに挑戦し、初級者のお友だちは急な斜面に挑戦をするなど、充実した 1 日を過ごす事ができました。丸沼高原スキー場に行った中級レベル以上のお友だちは午前中から様々なバーンに挑戦し、長い距離や急な斜面などで滑走スピードのあるスキー目指して練習していきました。この日はグレンデがとても空いていたこともあり、滑走量もしっかりと確保しスキーレベルが格段に上がった印象です。2 日目は 1 日丸沼高原でレッスン、お風呂の時間に戸倉チームと合流し生活グループに戻りました。この日も

夕食の後はレッスングループミーティング、その後はグループタイムとなります。スキーキャンプのグループタイムではグループリーダーがそれぞれ考えたプログラムを実施しています。今回も外で雪の灯籠を作ったり、可愛いアクセサリ作りをしたりとグループの関係性を深めるいい時間となりました。

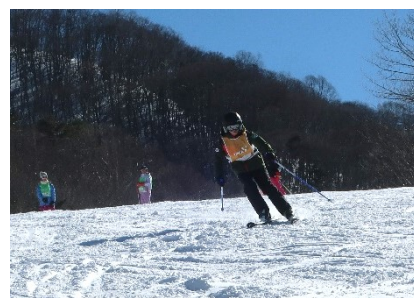


3 日目も朝から雪が降っていました。朝の体操・お話を終えて朝食を食べたらゲレンデに向かいます。この日はキャンプ全員で丸沼高原スキー場に向かいました。前日に初めてリフトに乗ったお友だちも丸沼高原スキー場の長いゲレンデに挑戦しました。最初は怖がっている様子も見られましたが、リーダーと一緒に滑っていく中で転ぶ回数が減り、お昼の時間にはとても自身に満ち溢れた表情が見えました。初級者以上のお友だちは「ワッペンテスト」を実施しました。YMCA では全国で同じ基準のテストを実施しており、3 日目の午前中から午後にかけてそれぞれのレッスンにディレクターが顔を出し、テストをしていきました。子どもたちにも朝の時点でそのことを話し、少し緊張感を持った中でテストを実施しました。もちろんチャンスは 1 回ではなく翌日午前中まで何回か挑戦の時間を設けています。何度もワッペンテストを受けているお友だちは、次のワッペンになる為の基準などをレッスンのリーダーに質問している様子も見られ、「ただ楽しい」だけじゃない特別な時間になりました。午後になると風が強くなり雪で視界が悪くなる「ホワイトアウト」という状況になってきた為、帰る時間を予定よりも早めて翌日のレッスンに備える事としました。ゲレンデから宿に帰るバスではほとんどの子どもたちが眠りにについている様子でした。3 日目はゲレンデアップが早かったのでお風呂の後に部屋でゆっくりと休むことが出来ました。夕食の後は年末スキーキャンプ恒例のキャンドルサービスです。毎年大広間に LED ランプを置いて振り返りの時間を設けています。今年度はグループから 1 名代表のお友だちがキャンプの感想を話し、合間でキャンプソングを歌いました。さらにキャンプに参加をしているリーダーたちが一人ひとり子どもたちに向けて話をしていきます。特に今年度で卒業となる大学 4 年生は現役リーダーで行く最後のスキーキャンプとなり、今までの想いが涙となって溢れていました。キャンドルの最後は恒例となった卒業する 4 年生と OBOG リーダーが「いつかまたどこかで」を唄って素敵な夜が終わりました。毎年この場で 4 年生の想いを聴き、3 年生以下のリーダーたちは決意新たにリーダー活動をしています。キャンプソングを歌いながら涙を流す子どもたち、私たちの想いが少しでも子どもたちに届いていれば幸いです。



4 日目は前日までの雪が止み太陽が昇りました。子どもたちは急いで部屋の片づけとスキーの準備をしてバスに乗り込みました。最終日はスノーパーク尾瀬戸倉でのレッスンです。初日は動いていなかったリフトも稼働していたのでレッスンの幅も広がり、様々なバーンでスキーを楽しみました。前日のワッペンテストの続きをするお友だちも数人いましたが、最終日は「楽しく滑ろう！」というテーマの基、限られた時間の中で安全に留意し、最後のスキーを楽しんでいる様子でした。11 時にはゲレンデアップし宿で昼食、13 時には帰りのバスが出発をしました。バスの中では子どもたちが楽しみにして

いる「ワッペン発表」もあり、合格して喜ぶ子、悔しくて涙を流す子など様々な感情が入り混じる時間となりました。



YMCA のキャンプでは毎回テーマがあります。テーマはキャンプ実施前の準備会（リーダー会）の中で「どんなキャンプにしたいか」「どんな事を感じて欲しいか」などをリーダーたちが話し合い決めています。今回のキャンプは「ねがいごと」というテーマです。

キャンプでは私たちリーダーも子どもたちも様々な願いを持っています。「スキーが上手になりたい」「あの子と仲良くなりたい」「ケガなく 4 日間過ごしたい」etc,,,そんな「願い」をどんどん言葉にして出してみよう！相手に伝われば叶う願いもある！願い続けることで叶う願いもある。そんな思いを持って考えたテーマです。コロナ禍が明けて 3 年目となる年末スキーキャンプですが、半数以上のお友だちが昨年度も参加をしていた方でした。学年も上がり周囲の状況も変わってきますが、年に 1 回年末のスキーキャンプで再会する時間を私たちも嬉しく感じます。今年度は昨年 2 月のスキーキャンプに高校 3 年生として参加をしていた男の子が大学生になりリーダーとして帰ってきました。小学生の頃から参加し、コロナ禍で一度離れてしまいましたが、4 月からリーダー活動をしています。千葉 YMCA では彼以外にも小学校時代のキャンプに来ていた子が 4 名高校生リーダーとして日帰り活動に参加しています。このキャンプに来ていた子どもたちが将来スキーキャンプのリーダーとしてキャンプに帰ってくる日を楽しみに「ねがいごと」「キャンプで会いましょう」「いつかまたどこかで」etc、沢山のキャンプソングを歌いました。

また YMCA キャンプでは「スキー」という手段を通じて、子どもたちの心身の成長と豊かな心を育みたいと願っております。スキーレッスン中は「技術的な指導」だけでなく、休憩時間に雪遊びを一緒に行ったり、リフトに乗りながら「部屋での過ごし方」「学校のこと」など様々な会話をしています。その中でも千葉 YMCA では「グループタイム」の過ごし方を大切に考えています。「楽しい時間を過ごす」ことは大前提ですが、一番大切にしているのは「子どもたちへの想い」です。リーダーたちには「グループタイムで何を作るかは大切じゃない」と話をしています。一番大切なのは「これをやったらどんな反応するかな？」「こんな遊びしたら仲良くなるかな？」「これをやったら最高の思い出になるかな？」など、どれだけ子どもたちに対して「想い」を膨らませる事が出来るのかです。私たちが子どもたちと一緒に過ごす時間は長いようでとても短い時間です。その中で子どもたちとどんな時間を過ごせるのか。どんな想いを持って過ごせるのか。それが大切なお子様を YMCA に預けてくれた保護者様に対する責任であり、私たちに期待をされている事だと考えています。



最後になりますが 2024 年度のエンジョイスキーもご家庭からのお力添えがあり無事に終了をしました。千葉 YMCA では今後も子どもたちの未来を考えて活動を続けて参ります。

ご参加を頂きましてありがとうございました。

キャンプディレクター 小林 和弘（かずっち）

キャンプ名：どきどきウインターキャンプ

日 程：2025 年 1 月 11 日（土）～1 月 13 日（月・祝） 2 泊 3 日

宿 泊：千葉市少年自然の家

参加対象：年長～小学 6 年生

運営体制：キャンプディレクター 小林 和弘（かずっちリーダー）
松原 奈美（まっつーリーダー）
プログラムリーダー 北島 花菜（むぎリーダー）
黒住さくら（ととリーダー）
グループリーダー 岸原 光里（びすこリーダー）
中村 聡志（ブルリーダー）
平山 華（ころもリーダー）
岸田 結葉（ハラちゃんリーダー）
OG リーダー 渡辺 実喜（くらりすリーダー）

タイムテーブル：

日程	1 月 11 日（土）	1 月 12 日（日）	1 月 13（月・祝）
午前	千葉駅集合 千葉市少年自然の家到着 現地集合	朝の集い→朝食 野外炊飯作り（豚汁）	朝の集い→朝食 クライミングウォール ハイキング
午後	昼食（食堂バイキング） おもちつき体験	昼食 三角弁当、豚汁 施設内散策 ポプリ作り①	昼食 ポプリ作り② 現地解散 千葉駅解散
夜	夕食 キャンプファイヤー 就寝	夕食 スモアーズ ポップコーン作り 就寝	

ディレクター報告：

この度は千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催のウインターキャンプにご参加頂きありがとうございました。今回は現地集合解散だけでなく、オプション送迎として公共交通機関を利用して千葉市少年自然の家に向かいました。大きな怪我や事故がなく 3 日間のプログラムが実施出来ました事、ご報告させていただきます。

1 日目の朝は「千葉駅」で集合し、外房線に乗車して茂原駅まで向かいました。電車の中では、リーダ

ーとお友達と 40 分程の電車旅、茂原駅からは 30 分程小湊鉄道バスに乗り自然の家に向かいました。

途中少し疲れも見えましたが千葉市少年自然の家まで頑張って移動することができました。現地で集合するお友だちも合流し、キャンプがスタートします。まずはレクリームに集まり、オリエンテーションを行います。リーダーたちの自己紹介や施設の使い方を確認し、そのあとは食堂に移動、お昼ご飯の時間です。自然の家でのご飯はバイキングです。好きなものをお皿に盛りグループごとに食べ始めました。他の団体も利用するので時間は限られていますが、その中でジュースを飲んだり、おかわりをたくさんしていました。中には、「次はおもちつきがあるから少な目にしておこう」といった声や、片付けをしているときに「次、おもちつきじゃん、食べすぎちゃったよ〜、おもち食べられるかな〜」と、心配そうな声も聞こえてきました。ログハウスに戻り、お餅つきです。今回はながら夢工房の方々がお越しになり、羽釜を使ってもち米をふかして、臼と杵を使っておもちつきを体験しました。もち米をふかしている間は、羽釜の近くで夢工房の方々と



お話しを楽しんでいる子や鬼ごっこをしている子、それぞれ楽しい時間を過ごしました。途中でさつまいもを焼いてくださり、ほかほかで甘い焼き芋もいただきました。もち米が炊き上がり、いよいよおもちつき体験のスタートです。はじめは夢工房の方々が「よいしょ〜、よいしょ〜」と掛け声に合わせておもちをついていましたが、「順番にみんなもどうぞ〜」と声が掛かり順番にお餅つきをしていきます。杵が重く低学年のお友だちはリーダーと一緒に体験しました。順番にお餅をついていると、掛け声が段々と声が大きくなっていき、いつの間にか野外炊飯場にみんなの声が響き渡っていました。つき終わったお餅をみんなで食べます。夢工房の方々があんこときなこ、大根おろしなどを用意してくださり、みんなで美味しくいただきました。「おもちにあんまり好きじゃないかも〜」と言っていた子もおかわりをして口の中いっぱい頬張りながら美味しそうに食べていました。食べ終わった後はみんなでキャンプソング「たからもの」を歌い、感謝の気持ちを伝えました。夕食の時間を待っている間に、キャンプファイヤーの薪組をやりたい子を募集し、3 人のお友達がみんなの為に薪組をしてくれました。その後は、入浴を済ませて夕食の時間になり、グループごとバイキングの食事を楽しみました。次はキャンプファイヤーです。大きな炎を囲んでレクリエーションやキャンプソングで楽しい時間を過ごしました。キャンプファイヤーが終わるとグループごとにログハウスに戻り、就寝となります。

2 日目は起床し、朝食や身支度を済ませたらお昼ご飯に食べる豚汁をみんなで作ります。全体で火起こし担当と野菜切り担当に分かれてスタートです。6 年生の男の子が火起こし担当のリーダーになり、ボランティアリーダーたちに見守られながら、みんなに薪の組み方やマッチの使い方などをレクチャーしていました。無事に火がつき、野菜も切り終わり、順番に薪の様子を見たり、野菜切り担当は使った道具の洗い物をしていました。冷たい水で「ひゃ〜冷た〜い!!」と叫びながら、洗い物をしていたのが印象的でした。また、冷たい手を火の近くで暖めるのを繰り返しながら、



順番に片付けをしました。2 時間ほどで豚汁が完成し、お弁当を食堂に取りに行き、グループごとに「いただきます！」をして食べ始めました。みんなで作った豚汁で心も身体も温まりながら、美味しく食べました。片付けを済ませて休憩をとった後、施設内の遊歩道を歩いて、クラフト「ポプリ」に使う葉っぱ探しの探検です。ビニール袋いっぱいの葉っぱを拾い、クラフト室に移動し、ポプリ作りのスタートです。自分で拾った葉っぱの中から幾つか選びをキッチンペーパーの上に乗せ、電子レンジで乾燥させます。乾燥させた葉っぱを不織布で包んで完成です。電子レンジで乾燥させることで匂いの変化がよくわかり、子どもたちも楽しそうに作っていました。中には、「これ変なおいがする～」や「クッキーみたいないい匂いがするよ～」など、お友だち同士で匂い比べをしていたのが印象的でした。夕食の後はスモアーズとポップコーン作りです。高学年の男の子たちがみんなのために早めに火の準備をしてくれました。午前中にも火の担当をしていたので、夜はスムーズに火をつけることができました。ポップコーンをフライパンに入れ、しばらくすると「ポン！...ポンッ!!」と音が聞こえてきて、あっという間にフライパン山盛りのポップコーンが完成しました。また、スモアーズも口の周りに白いマシュマロをつけながら美味しそうに食べ、あっという間に完食です。その後はログハウスに戻り、就寝となります。



3 日目はお部屋の掃除からスタートです。自分たちが3 日間使ったログハウスを綺麗に清掃して、食堂に向かいました。食休みをし、クライミングに挑戦です。装備のつけ方や登り方、降り方などの説明を聞き 3m・6m・9mの壁の前に子どもたちそれぞれが並び挑戦です。順番を待っている間も頑張っているお友だちの応援や自分が登る時のイメージをしている子もいました。それぞれの壁に挑戦し、クライミングの体験が終了しました。昼食を食べて、みんなで3 日間の振り返りを行いました。グループのお友だちとお話をしたり、日記を書いたりしました。全体ではキャンプソングを歌い、振り返りの時間を過ごしました。



今回のキャンプは人数が少なかったのでグループ関係なく過ごす時間が多く、学年が違うお友だちともお話している姿や鬼ごっこなどで遊んでいる姿がとても印象的でした。また、今回のキャンプはみんなで普段できないキャンプファイヤーの薪組や、野外炊飯の食材を取りに行くなど準備の段階から子どもたちと一緒にやることでグループ以外のお友だちとのコミュニティが増えていたのが印象的でした。また、地域の方々との関りがあり、普段とはまた違った体験ができたキャンプとなりました。

最後になりますが、ご参加にあたっては、豊かな体験活動の場に送り出して頂けましたことを心より感謝申し上げます。子どもたちの未来を大切に YMCA では、人との関わりと自然を楽しむこと大切にこれからも展開していきます。またどこかの場面でお子様とお会い出来るのを楽しみにしております。

キャンプディレクター 松原 奈美（まっつー）

キャンプ名：エキスパートスキー×雪遊び・はじめてスキーキャンプ

日 程：2025 年 2 月 21 日（金）夜～ 2 月 24 日（月・祝） 3 泊 4 日

宿 泊：尾瀬関の宿 ホテル玉城屋

ゲレンデ：スノーパーク尾瀬戸倉

参加対象：小学 1 年生～高校 3 年生

運営体制：キャンプディレクター 小林 和弘（かずっちリーダー）
松原 奈美（まっつーリーダー）
グループリーダー 大橋 千花（ちーちゃんリーダー）
藤原 彩来（じょいリーダー）
大木 翔 （オセロリーダー）
寺島 颯太（てらっちょリーダー）
OBOG リーダー 吉野 春奈（あまさんリーダー）
藤村 美里（しゃんしゃんリーダー）
高橋 瞬 （ぱっそリーダー）
緒方 昂洋（ハイオクリーダー）

タイムテーブル：

日程	2 月 21 日（金）	2 月 22 日（土）	2 月 23 日（日）	2 月 24 日（月・祝）
午前		朝の集い→朝食 板・ブーツ合わせ レッスン①	朝の集い→朝食 レッスン③	朝食 チェックアウト レッスン⑤
午後		昼食 レッスン② グループタイム	昼食 レッスン④ グループタイム	昼食 ホテル出発 各指定場所で解散
夜	集合 バス移動 就寝	夕食 レクリエーションタイム 就寝	夕食 スタンプ大会 就寝	

ディレクター報告：

この度は、千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催のウインターキャンプにご参加いただき、誠にありがとうございました。今年度は雪にも恵まれ、非常に良い雪質の中でキャンプを実施することができました。しかしながら、積雪が多かったため、道路状況に不安を感じられた保護者の皆様も多かったかと存じますが、大きな事故や怪我もなく無事にキャンプを終えることができましたことをご報告いたします。

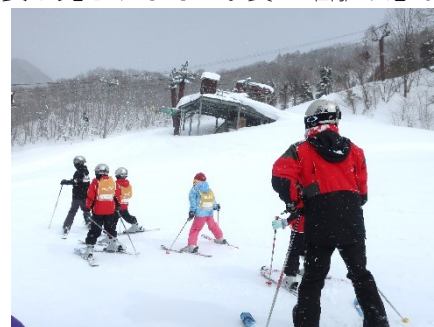
初日は、学校を終えてご自宅で夕食や入浴を済ませてからの集合となりました。集合場所は「千葉駅」と「流山おおたかの森駅」の2か所で、それぞれに集合しバスに乗って出発しました。初参加のお友だちや、久しぶりに参加するお友だちは少し緊張している様子でしたが、時間の経過とともに笑顔が増えてきました。バスの中では1時間ほどレクリエーションを行い、その後就寝時間となりました。バスは予定通りに宿へ到着し、各自の部屋に移動して1日目が終了しました。

2日目は、少し遅めの起床、食堂へ移動して朝食を済ませた後、スキーの準備を行いました。ソックスやアンダーシャツの着方をリーダーが確認しながら、スキーブーツを履き、マイクロバスに乗り込みました。前日も雪が降っていたため、グレンデコンディションは最高でした。午前中のレッスンでは、板合わせを行った後、足慣らしとして何本も滑り、あっという間に午前中が終了しました。昼食のため宿へ戻り、雪遊びのお友だちと合流して一緒に温かい中華丼を食べました。おかわりも含め、皆で完食しました。1時間ほど休憩を取り、午後のレッスンがスタートしました。

午後は、各レベルに応じたバーンでレッスンを行い、翌日のワッペンテストに向けて真剣に練習している姿が印象的でした。転ぶ回数が増え、疲れが見えたため、予定より早めに終了し、宿に戻りました。その後、希望者のみ雪遊びに合流し、そり滑りやかまくら遊びを楽しみました。雪遊びの仲間たちは、そり滑りのコースや登って良い場所、かまくらの工夫点などを自慢げに教えてくれました。遊び終わった後は、順番にお風呂に入り、各部屋で夜のレクリエーション大会に向けての練習する時間となりました。18時から夕食をとり、その後はレッスングループミーティングを実施しました。スキーグループごとに、その日の振り返りや雪上で伝えにくかった細かい点について、リーダーが撮影した映像を見ながら解説を行いました。15分ほどでしたが、参加者たちは真剣な表情で話を聞いていました。夜にはレクリエーションを行い、各グループが部屋で練習していたゲームを披露し、キャンプ全員で楽しい時間を共有しました。



3日目は、朝の集いから始まりました。大広間で体操を行い、ディレクターからのお話を聞いた後、朝食の時間となりました。この日は、雪遊びのお友だちもグレンデに向かいました。部屋でスキーの準備を済ませ、全員でマイクロバスに乗り、グレンデへ出発しました。雪遊びのお友だちは、まず板合わせからスタートし、ブレーキ練習を経て、緩やかなグレンデをターンしながら滑りました。前日から滑っているお友だちは、午後のワッペンテストに向けて、子どもたちもリーダーもこれまで以上に真剣にレッスンに取り組んでいました。午前中から午後にかけて、何度もワッペンテストに挑戦するお友だちは、様々なバーンに挑みながら、次のワッペン基準についてリーダーに質問する姿が見られました。長い距離や急な斜面でターンのリズム変化や、スピード感のある滑走を目指して練習を続け、十分な滑走量を確保できました。午前中のレッスンを終えた後、宿に戻り、昼食と休憩を取りました。午後のレッスンでは、ディレクターが各レッスンに顔を出し、ワッペンテストを実施しました。テストのチャンスは1回だけではなく、翌日の午前中まで複数回挑戦できる時間を設けました。グループごと順番にテストが行われ、午後のレッスンが終了しました。テストの緊張感が



解け、帰りのバスでは、ほとんどのお友だちが眠りについていました。宿に戻り、入浴を済ませた後は、夕食までの空き時間に、夜のスタント大会に向けて各グループで役決め、セリフ、衣装などを考え、練習を重ねていました。夜ごはんを食べてスタント大会のスタートです。発表のテーマは、以下の通りです。

「サザエさん×宇宙旅行」「スーパーマリオ×運動会」「ディズニーキャラクター×ファッションショー」「ドラえもん×バレンタイン」役割分担は各グループで決め、他のグループがどのようなキャラクターや衣装を準備しているのか分からず、みんな自分の発表のドキドキしながら待ち、他のグループがどんな感じの劇なのかを楽しみにしながら本番を迎えました。発表では、笑いあり、応援ありの盛り上がりを見せ、無事にすべてが終了しました。発表後には、優秀作品賞、MVP 賞、特別賞などの表彰が行われました。審査は OBOG とディレクターが担当し、真剣に審査を行った上で、受賞者にはプレゼントが贈られました。



4 日目は、部屋の片づけからスタートしました。朝ごはんを済ませた後、スキーの準備をしてバスに乗り込みました。前日のワッペンテストの続きを受けるお友だちも数人いましたが、最終日はスキーを楽しく滑り、すべてのレッスンが終了しました。ゲレンデを後にして宿に戻り、昼食をとった後にはキャンプの振り返りを行い、帰りのバスが出発しました。バスの中では、子どもたちが楽しみにしていた「ワッペン発表」もあり、合格して喜ぶ子や、悔しくて涙を流す子など、さまざまな感情が見られました。

今回のキャンプでは、私たちリーダーと子どもたちがキャンプ期間中を「家族」のように、どんな些細なことでも共有できる関係を築きたいという思いから、キャンプテーマを「ファミリー」としました。また今回は参加者が少なかったこともあり、キャンプ全体での一体感をより強く感じる場面が多くありました。

YMCA キャンプでは、「スキー」という手段を通じて、子どもたちの心身の成長と豊かな心を育むことを願っています。スキーレッスン中は「技術的な指導」だけでなく、休憩時間には雪遊びを一緒にしたり、リフトに乗っている間に学校のことや他愛もない会話を楽しんだり、子どもたちとの大切な時間を過ごしています。

今年は積雪にも恵まれ、さまざまなバーンでレッスンを行うことができ、充実した時間を過ごすことができました。最後になりますが、2024 年度最後のスキークャンプ「エキスパートスキー×雪遊び・はじめてのスキー」も、ご家庭からのあたたかいご支援・ご協力のおかげで、無事に終了することができました。ご参加いただきありがとうございました。



キャンプディレクター 松原 奈美（まっつー）

キャンプ名： チャレンジネイチャーキャンプ

日 程：2025 年 3 月 25 日（火）～3 月 27 日（木） 2 泊 3 日

宿 泊：千葉県少年自然の家 ログハウス

参加対象：年少～小学 6 年生

運営体制：キャンプディレクター 小林 和弘（かずっちリーダー）
プログラムリーダー 木下 恵水（ぽんちゃんリーダー）
比企 奏美（たんたんリーダー）
グループリーダー 平山 華（ころもリーダー）
大和田健斗（けんていーリーダー）
畑 恵梨花（ぴよりんリーダー）

タイムテーブル：

日程	3/25	3/26	3/27
午前	集合 電車移動 オリエンテーション	朝食 野外炊飯（カレー作り）	荷物整理 朝食 いちご狩り
午後	昼食 葉っぱスタンプでバンダナ作り 木のペンダント作り	昼食（カレー） お昼寝 自由時間	昼食 振返り 移動➡解散
夜	夕食 クライミングウォール体験 就寝	夕食 キャンプファイヤー 就寝	

ディレクター報告：

この度は千葉 YMCA 環境野外教育研究所主催のスプリングキャンプにご参加頂きありがとうございました。キャンプ参加にあたりご不安な点もあったかと存じますが、お子様をお預け顶けました事、感謝申し上げます。キャンプ期間中は天候にも恵まれ素晴らしい3日間となりました。

キャンプ初日、流山おおたかの森駅と千葉駅で子どもたちは集合し、電車とバスを乗り継いで自然の家まで向かいました。最初は緊張していた様子もありましたが、自然の家に到着をする頃には会話が弾み子どもたちの笑顔も多く見えました。自然の家のログハウス側から施設内に入り、オリエンテーションを実施します。リーダーたちの自己紹介や施設の使い方を確認し、改めてグループ内で自己紹介タイムを取りました。その後昼食のバイキングに移動し、グループ毎に席を取って昼食の時間になりました。昼食の後

はみんなでログハウスに移動します。今回のキャンプでは1グループずつ1棟のログハウスに入り宿泊をします。初めて入るログハウスに興奮する子どもたち、リーダーたちが必死に落ち着かせて荷物の準備や寝る場所の確認をしている姿がとても印象的でした。1日目午後のプログラムはクラフト中心でした。自然の家のクラフト室に移動し、まずは名札としても利用する「木のペンダント」を作成、その後はみんなで葉っぱスタンプのバンダナ作りを行いました。クラフト室周辺の竹藪を散策し、葉っぱを集めます。集めた葉っぱに絵具で色を付けて真っ白いバンダナに模様を付けていきました。それぞれの個性が出る素敵な作品が出来上がりました。普段はただ通り過ぎるだけの森ですが、「面白い形の葉っぱを探す」という目的を持って歩くと沢山の発見があります。「ハートの形だ!」「ギザギザしてクリスマスツリーみたい!」「さっきの葉っぱと合体させたら宇宙船になる!」など子どもたちの豊かな発想と自然が重なり合う時間となりました。クラフトの後は夕食の時間、その後はクライミングウォール体験になります。自然の家には3m・6m・9mの壁がありますが、全ての壁に挑戦をしていきました。6m・9mの壁はハーネスを着用し挑戦をしていきます。頂上まで登りきると歓声が上がり、それぞれの子どもたちが自分の力に挑戦をする時間になりました。クライミングウォールの後はお風呂に入り、ログハウスで就寝となります。初めてシェラフ（寝袋）で寝るお友だちにとっては落ち着かない環境ですが、疲れもあるせいか寝付きは良くすぐに眠りにつきました。



2日目も空には太陽が昇り、朝から半袖の子どもたちが多くいました。2日目一番のミッションは昼食の野外炊飯です。キャンプみんなで協力をして「カレーとご飯」を作ります。話し合いの結果、男の子が「薪割・火起こし」を担当し、女の子が「お米・野菜切り」を担当する事になりました。女の子チームには女子リーダーが付いて丁寧に包丁・ピューラーを使って野菜を切っていました。火が通りやすいようにじゃがいもやニンジンも細かく切り、お米も飯盒に入れて火にかけます。男子チームは薪の量を調整しながら火のコントロールをしていきます。2時間程で無事にカレーとご飯が完成し、大きな声で「いただきます!」が響き渡りました。自分たちで作ったご飯は一層美味しく、おかわりも分も含めて完食となりました。その後はお昼寝の時間です。「寝たくない」「起きていいんだよね??」と言いながらログハウスに向かった子どもたちですが、少しして部屋を覗くと全員が夢の中でした。こちらの想像以上に疲れている様子だったのでお昼寝の時間を予定よりも長くし、予定していたハイキングは見送りました。15時頃にグループ毎に起床し、そのままグループでの自由時間。幼児グループはもう少しお昼寝をする事ができました。自由時間の後は夕食、そのままキャンプファイヤーになります。中央に組まれた大きな薪に火が灯り、歌やゲームをしていきます。みんなお昼寝をしたので元気いっぱい、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。キャンプファイヤー終わりの空には星空



も広がり、キャンプファイヤーの余韻に浸る時間も子どもたちにとって良い思い出となりました。

3 日目はお部屋の掃除から始まります。自分の荷物を片付けてログハウスのお掃除です。大きな荷物を運ぶのも大変な作業ですが、小さな体で一生懸命運ぶ姿がとても印象的でした。朝食を食べて食休みをしたらいちご狩りに出発です。自然の家のマイクロバスに揺られて 15 分、Mama'sBerry に到着をしたらいちご狩りスタートです。ビニールハウスへ入る前にいちご狩りが大好きなリーダーから「みんな入口付近から食べていくから、奥の方まで移動した方が赤くて美味しいのが残ってるよ♪」とアドバイス。「わかった!」「まずは奥まで移動しよう!」と意気込んでビニールハウスに入りましたが、「あったー!」「これ赤い!」と入口付近で早速の大渋滞です。リーダーたちが必死に「奥まで行こうよ!」と言っているのを横目に入口付近でどんどん食べていく子どもたちを見て農家の方も大笑いでした。少しずつ奥まで移動をしていきましたが、奥に行く頃には「もう食べられないかも...」と口々に言う子どもたち。気が付くと子どもたちの容器はヘタだらけになっていました。いちご狩りの時間は 40 分程で終了、食休みをして自然の家まで戻りました。その後は自然環境館の見学や自由時間、昼食バイキングを食べて振り返りの時間となりました。



今回は例年以上に気温が高い中でのキャンプとなりました。特にキャンプ前との寒暖差が大きく、キャンプ 2 日目の最高気温は 27 度を記録するなど体調管理も難しい期間となりました。キャンプ中は随所に春の訪れを感じ、虫や小鳥のさえずりに気が付き、久しぶりの虫に悲鳴を上げる子どもたち、半袖で汗をかきながら走り回り「3 月で半袖だと夏着る服ないかも!」というお友だちもいました。YMCA のキャンプで定番となるキャンプソング。ギターの音色に合わせて元気よく歌う子どもたちの姿も印象的でした。初めて参加をされたお友だちも少しずつ馴染み、人数が少ないからこそ「キャンプ全体」で過ごす時間が多く取れて全体のまとまりを強く感じるキャンプが過ごせました。新学年になり生活環境が変わるお友だちもいますが、千葉 YMCA ではリピートしてキャンプに参加をするお友だちが沢山います。このキャンプで出会った子どもたちと、またいつかキャンプで会えるのを楽しみにしております。



ご参加いただきありがとうございました。

キャンプディレクター 小林 和弘（かずっち）